

「ふくおか木質バイオマス発電所」 地域の未利用資源(国産材 100%)を利用

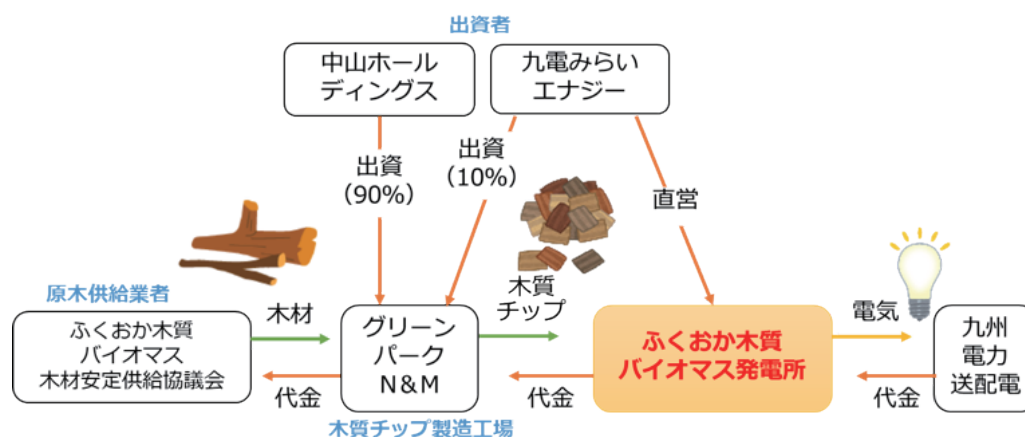
間伐材など国内で発生する未利用木材を、燃料として有効活用する木質バイオマス発電事業です。林業関係者等で組織する「ふくおか木質バイオマス木材安定供給協議会」が木材を供給、中山ホールディングス(株)と当社の共同出資会社「グリーンパークN&M(株)」が発電所構内にて木質チップを製造、当社が発電所の運営を行います。

これまで利用されてこなかった木材を発電用に利用することで、地域の林業活性化に貢献するとともに、林地残材の減少による防災効果、更には地域経済への貢献も想定されるなど、福岡県初の国内材専焼の木質バイオマス発電所として、地域と共に歩んでいます。



- 【設備容量】 5,700kW
- 【所在地】 福岡県朝倉郡筑前町
- 【運転開始】 2020年5月
- 【使用燃料】 国内未利用材
- 【事業会社】 九電みらいエナジー(株)

事業スキーム



一次産業との共存共栄

福岡県の森林率は全国40位と低く、木質バイオマス発電所の立地に適さないと言われてきました。しかし、地元森林組合等の林業関係者の方々との連携により、木材の安定供給協議会を設立、発電所を筑前町に建設したことで、半径50km圏内より燃料となる木材を広く集める体制が実現でき、安定した発電を行うことができます。



未利用木材を有効活用し、森林再生に寄与

これまで利用されてこなかった間伐材などを、燃料として有効活用することができるため、適正な間伐が進み、森林の多面的機能（水源かん養、防災（流木）、生物多様性など）発揮や保全が期待できます。

